

群馬県立桐生清桜高等学校 学校評価一覧表②(令和5年度版)

(様式2)

羅 針 盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 選択科目を多く設定している教育課程に満足している生徒が80%以上いる。	A	B	A	清桜高校として新教育課程に対応した教育課程が形になった。今後の生徒の選択状況や進路に合わせて不断の見直しを行って行く。	大学進学から就職までの幅広い生徒がいるので、それに対応するのは難しい。学校として大学進学を主な目的としているのでそこに照準を合わせたものになっている。	定期的に見直しをする必要がある。1学期に見直しをして、2学期に本格的な履修指導ができるようにする。
	2 生徒が充実感・満足感を得られる教育活動を行っていますか。	② 文化祭・体育祭・球技大会等の生徒会行事に主体的に取り組み楽しかったと自己評価した生徒が80%以上である。 ③ 桐生清桜高校の学校生活が好きだと感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	年度当初計画した学校行事が順調に行えるようになった。一部中止したものもあるが、感染状況等を考慮した行事について引き続き検討していく。 学校評価アンケートなどを参考に充実した学校生活を送れるよう改善に努める。	行事については、主体的に取り組んでいる。当日は欠席者も少ない。今後定着して行くが良い。 不満を抱えている生徒もいるが、他人のことを考えられる様な生徒も多く、全体として安定している。	清桜高校としての形が決まりつつある。今後それを成熟させる。 生徒間の人間関係が上手くいくような取り組みを検討する。
	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 「授業が分かりやすい」と思っている生徒が80%以上いる。 ⑤ 「協働学習」等の学び合いに意欲的に取り組んだと自己評価した生徒が80%以上である。	A	A	A	授業アンケートの結果を参考にして授業改善に努める。 協働学習を行う効果的な場面の検討と協働学習が行える人間関係づくりを平行して行う。	生徒のレベルを考えて授業を行うことで分かりやすい授業を展開できているが、今後難しい内容を分かりやすく行う工夫が必要である。 多くの生徒は、協働的な学習に取り組めるが中には苦手な生徒もいる。そのようなときにどうすればよいか今後の課題であると考えている。	学習による充実感を味わえるように理解した内容が、力になるよう指導を工夫する。 分からないことを気軽に相談できる関係を気づけるようにする。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥ 学習に対する達成感・満足感をもっている生徒が80%以上いる。	C	C	C	自ら進んで学習できる生徒のやる気を高める指導を検討していく。	家庭学習の充実が図れるような指導を展開していく必要がある。	家庭学習の重要性を説きながら、学習の成果が実感できる指導を心がける。
	5 生徒状況を把握し、組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ きめ細かな生徒観察を通して生徒に関する情報交換を月に4回以上実施している。 ⑧ 組織的な服装・頭髪・挨拶指導を月に1度(1週間程度)行う。	B	A	B	年次会議や教育相談会議など定期的に行われ情報交換されている。学校全体としての情報共有を職員会議などを通して行う。 定期的な指導を行い効果も上げている。作成中の生徒心得をもとにより足並みのそろった指導が行えるようにする。	生徒指導小委員会や教育相談係会議を毎週行い、各年次の情報共有ができています。年次の枠を越えて足並みのそろった指導を行えるようにしている。 制服は中学生や近隣からの評判が良い。「清桜プライド」を合い言葉に良い着こなしができるよう自己規律を喚起している。	年次の枠を越えて情報が共有できるような取り組みを検討する。 自らを律することができる生徒を育てると共に、学校として足並みのそろった指導を心がける。
	6 生徒は健康で規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 生徒指導部だよりを10回以上発行し、学校の指導方針を生徒や保護者に伝える。 ⑩ 「部活動の活性化」の目標の下、部活動に加入している生徒が60%以上である。 ⑪ 欠席率・遅刻率・早退率の合計がやむを得ない理由を除き在籍生徒の3%以内である。	B	B	B	生徒指導部だよりを定期的に発行し、メール連絡網システム(オクンジャー)を利用し保護者へも配布している。 部活動の加入率を更に高め、学習外の本認知能力の育成をしていきたい。 基本的な生活習慣の確立は最も重要なことの一つであるという認識を再確認し、様々な場面で訴えていきたい。	長期休業の前には必ず出すようにしている。手渡しでは行き届かないので、携帯電話連絡網システム(オクンジャー)を利用している。 部活動を活性化させたいが、アルバイトをしている生徒もいてそれが妨げになっている部分もある。経済的な理由の生徒もいるがお小遣い稼ぎなどの生徒もいる。 特定の生徒に欠席や遅刻が目立つ傾向にある。基本的な生活の見直しなどしっかり呼びかけていきたい。	一度に沢山の情報を入れるのではなく、ポイントを絞って定期的に発行できるよう工夫する。 部活動を活性化することでより帰属意識を高めることもできるので、部活動の充実に向け取り組む。 基本的な生活習慣を確立させるよう指導する。
7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	⑫ いじめの発生防止に努め、いじめの解消に推移していないいじめが0件である。	A	A	A	いじめについては、アンケートなどももとに迅速な対応ができています。今後もこの油断することなく続けていきたい。	生徒間のトラブルがほぼいじめと認識しなければならない状況である。また、トラブルの多くはSNSを介しておきること多い。職員が協力して早急な対応ができていますと思う。	現在の活動を継続していく。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑬ 各年次を対象にした進路関係行事を年5回以上実施している。 ⑭ キャリア教育・進路情報に関して最新の資料提供に努め、70%以上の生徒が自発的に進路活動を実施できるように促す。	A	A	A	1年を通じて計画的に実施できている。さらに、様々な進路希望に対応できるよう検討していく。 情報の提供など概ね適切なタイミングできている。今後も継続していく。	年次ごとや生徒の希望を募ってガイダンスや説明会を行っている。大学希望の生徒だけに焦点を当てるのではなく、専門学校や就職の生徒も色々な人から話が聞けるようにしている。 入試の制度がどんどん変わってきている。進路実現のための情報をいかに提供できるか。生徒はどれだけ情報を持っているかが重要になっている。	現在の活動を継続していきながら、新たな取り組みを模索して絶えず、アップデートする姿勢で臨む。
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、また保護者はそれを理解しその実現に向けて取り組んでいますか。	⑮ キャリア教育・進路関係行事に主体的に取り組んでいると自己評価している生徒の割合が80%以上である。 ⑯ 生徒の将来の進路希望について、具体的に理解している保護者の割合が、80%以上である。 ⑰ 進学・就職情報、就学資金等の情報提供が十分になされ、理解している保護者の割合が、80%以上である。	B	C	B	コロナやインフルエンザといった感染症もあるが、外部機関との連携を多く持ち、良い刺激が与えられるように工夫していく。 まず、生徒が自分の進路希望を持てるよう指導することが重要である。ただ、保護者との重要な話し合いを持てるように三者面談などを活用していきたい。 定期的に発行している進路だよりを常に見直し、適切な情報提供を今後とも続けていく。	1年生では大学企業見学が中止になってしまったことは残念である。自分の将来について考える機会を多く設けたい。 1年生では、希望進路未定者が46名いる。まず、生徒が自分の進路について考えられるような教育をしていきたい。 4月から15回位便りを発行している。生徒だけでなく、保護者に向けた内容にもなっている。	現在の活動を継続していきながら、新たな取り組みを模索して絶えず、アップデートする姿勢で臨む。
	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱ 学校行事や部活動、生徒会活動で地域の方々と交流する機会を10回以上設ける。 ⑲ 携帯電話連絡網システム(オクンジャー)の加入率が、全保護者の95%以上である。 ⑳ PTA総会等の保護者が参加する学校行事に出席した保護者が80%以上である。 ㉑ 学校のホームページを月2回以上更新している。	B	A	A	授業においては、探究活動で地域の会社との関わりをもっている。部活動については、主に和太鼓部がいろいろなところで演奏で貢献できている。今後も今の活動を継続していく。 99.3%の加入率で保護者と学校との連絡手段として今後も使用していく。アンケートで掲載期間が短いとの指摘もあったので、検討していきたい。 主な行事は、授業見学やPTA総会進路講演会等である。 現在、古いデータを随時更新中である。組織的かつタイムリーに更新していきたい。	探究の活動で地域のことを調べたり、関わりを持ったりする取り組みをしている。今後も続けていきたい。 加入率99.3%は、非常に良い数値ではないか。 PTA総会・授業参観だけでなく、必要に応じて担任等との面談などが必要だと思われる。 職員よりも保護者の関心の高さを感じる。職員が関心を持てるようにしていきたい。	現在の活動を継続していく。 加入率100%を目指す。 PTA総会・授業参観に加えて学級懇談会等の実施を検討する。 職員の関心を高める工夫が必要である。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ Chromebookを活用していると自己評価している生徒の割合が80%以上である。 ㉒ ICTを活用した授業を年3回以上実施している。	A	A	A	様々な場面で活用が広がっている。今後は、BYODに以降していくが想定される問題等に対処していく。 ICTを活用する職員が増えた。お互いの授業を公開したり、先進的な活用好事例を共有したりすることで、更なる授業力の向上に繋がりたい。	1年生の情報の授業を使って、最初の設定(IDやPWなど)行うことで、スムーズに使用することができている。 確実にICTを活用する職員が増えている。	新入生からBYODになり、様々な問題が予想されるがそれに対応したい。 さらなるICTの活用の可能性を模索する。
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉓ スタディサプリやGoogleClassroomを利用して、課題や配付物の配信等を行っているとして自己評価している職員の割合が80%以上である。	A	B	A	GoogleClassroomの利用はかなり進んできていると思うが、スタディサプリの活用が少ないと感じる。一部の教員にとどまらず、多くが利用するよう呼びかけたい。	スタディサプリについては、使い方課題の投げかけ等が難しく、活用しきれないと思われる。さらなる工夫が必要。	家庭学習の充実と合わせて取り組みが必要である。